

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	学部/学科の設置								
設置者	ガッコウホクニシカシニッポンガクエン 学校法人 東日本学園								
大学の名称	ホッカイドウリョウガクダイガク 北海道医療大学 (Health Sciences University of Hokkaido)								
大学本部の位置	北海道石狩郡当別町字金沢1757番地								
大学の目的	北海道医療大学は、教育基本法及び学校教育法並びに建学の理念に基づき、深く専門の学術を教授・研究し、有能かつ良識ある専門職能人を養成して、社会の発展に寄与するとともに、国民の保健、医療、福祉に貢献し、あわせて国際文化の向上を図ることを目的とする。								
新設学部等の目的	包括的なリハビリテーション医学を理解し、その中でコミュニケーション障害における多職種連携を担える人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	リハビリテーション科学部 言語聴覚療法学科 (School of Rehabilitation Sciences Department of Communication Disorders)	4年	60人	3年次 10人	260人	学士 (言語聴覚療法学)	平成27年4月 第1年次 平成29年4月 第3年次	北海道石狩郡当別町字金沢1757番地	
	計		60	10	260				
同一設置者内における変更(定員の移行、名称の変更等)	心理科学部 言語聴覚療法学科(廃止) (△60) (3年次編入学定員) (△10) ※平成27年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は平成27年4月学生募集停止) リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻博士課程(2) (平成26年7月届出予定)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	リハビリテーション科学部 言語聴覚療法学科	66科目	28科目	2科目	96科目	133.5単位			
教員組織の概要	学部等の名称		教授	准教授	講師	助教	計	兼任 助手	兼任 教員等
	新設分	リハビリテーション科学部 言語聴覚療法学科	7人 (7)	5人 (5)	3人 (3)	5人 (5)	20人 (20)	1人 (1)	14人 (3)
		計	7人 (7)	5人 (5)	3人 (3)	5人 (5)	20人 (20)	1人 (1)	14人 (3)
	既設分	薬学部 薬学科	20 (20)	22 (22)	13 (13)	16 (16)	71 (71)	0 (0)	11 (11)
		歯学部 歯学科	26 (26)	13 (13)	28 (28)	39 (39)	106 (106)	35 (35)	146 (146)
		看護福祉学部 看護学科	11 (11)	10 (10)	12 (12)	12 (12)	45 (45)	0 (0)	15 (15)
		看護福祉学部 臨床福祉学科	8 (8)	2 (2)	7 (7)	4 (4)	21 (21)	0 (0)	36 (36)
		心理科学部 臨床心理学科	6 (6)	4 (4)	6 (6)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	16 (16)
		リハビリテーション科学部 理学療法学科	9 (9)	0 (0)	4 (4)	7 (5)	20 (18)	0 (0)	21 (19)
		リハビリテーション科学部 作業療法学科	4 (4)	3 (3)	5 (5)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	17 (17)
個体差医療科学センター		3 (3)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	
	計	87 (87)	56 (56)	78 (78)	79 (77)	300 (298)	35 (35)	219 (217)	
合計		94 (94)	61 (61)	81 (81)	84 (82)	320 (318)	36 (36)	221 (217)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		54 人 (54)	53 人 (53)	107 人 (107)					
	技 術 職 員		7 人 (7)	8 人 (8)	15 人 (15)					
	図 書 館 専 門 職 員		1 人 (1)	14 人 (14)	15 人 (15)					
	そ の 他 の 職 員		53 人 (53)	61 人 (61)	114 人 (114)					
	計		115 人 (115)	136 人 (136)	251 人 (251)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	共用：歯学部附属歯科衛生士専門学校 収容定員150名 面積基準なし 大学全体				
	校 舎 敷 地	64,222.53㎡	1,650.00㎡	0㎡	65,872.53㎡					
	運 動 場 用 地	27,800.00㎡	0㎡	0㎡	27,800.00㎡					
	小 計	92,022.53㎡	1,650.00㎡	0㎡	93,672.53㎡					
	そ の 他	57,315.74㎡	0㎡	0㎡	57,315.74㎡					
合 計	149,338.27㎡	1,650.00㎡	0㎡	150,988.27㎡						
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体					
	72,110.27㎡ (72,110.27㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	72,110.27㎡ (72,110.27㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	48室	51室	51室	2室 (補助職員0人)	2室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数		大学全体				
	リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科			13 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書は電子ブックを含む 学術雑誌は電子ジャーナルを積極的に導入 図書等の数は学部単位での特定不能のため、大学全体の数		
	リハビリテーション科学部 言語聴覚療法学科	355,174 [186,160] (348,898 [185,948])	2,638 [1,217] (2,627 [1,209])	9,065 [7,389] (8,749 [7,169])	6,669 (6,565)	76,859 (71,179)	2,485 (2,380)			
	計	355,174 [186,160] (348,898 [185,948])	2,638 [1,217] (2,627 [1,209])	9,065 [7,389] (8,749 [7,169])	6,669 (6,565)	76,859 (71,179)	2,485 (2,380)			
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体				
	4,866.96 ㎡	445 席		275,000 冊						
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体			
	1,746.49 ㎡	屋外野球場・サッカー/ラグビー場・テニスコート (27,800㎡) フィットネスセンター (411㎡)								
経 費 積 立 方 法 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費、図書購入費、設備購入費については、学部単位での特定不能のため大学全体の数。 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運送料を含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		418千円	418千円	418千円	418千円			
		共同研究費等		23,000千円	23,000千円	23,000千円	23,000千円			
		図書購入費	88,107千円	88,000千円	88,000千円	88,000千円	88,000千円			
	設備購入費	568,820千円	455,662千円	455,662千円	455,662千円	455,662千円				
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
1,375千円	1,375千円	1,375千円	1,375千円	1,375千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、雑収入等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	北海道医療大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	薬学部 薬学科	6年	160人	3年次 10人	970人	学士 (薬学)	1.16	昭和49年度	北海道石狩郡当別町字金沢1757番地	
	歯学部 歯学科	6年	80人	—	540人	学士 (歯学)	0.62	昭和53年度	同上	
	看護福祉学部 看護学科	4年	100人	3年次 9人	408人	学士 (看護学)	1.05	平成5年度	同上	
	臨床福祉学科	4年	80人	3年次 9人	348人	学士 (臨床福祉学)	1.00	平成5年度	同上	
	心理科学部 臨床心理学科	4年	75人	3年次 2人	294人	学士 (臨床心理学)	1.11	平成14年度	北海道札幌市北区あいの里2条5丁目	
	言語聴覚療法学科	4年	60人	3年次 10人	253人	学士 (言語聴覚療法)	1.04	平成14年度	同上	
	リハビリテーション科学部 理学療法学科	4年	80人	2年次 5人	165人	学士 (理学療法)	1.19	平成25年度	北海道石狩郡当別町字金沢1757番地	
	作業療法学科	4年	40人	2年次 5人	85人	学士 (作業療法)	1.12	平成25年度	同上	
									※平成27年度より学生募集停止（言語聴覚療法学科）	

附属施設の概要	<p>名称 個体差健康科学研究所 目的 本学の行動指針「21世紀の新しい健康科学の構築」に基づき、文理統合による個体差健康科学の確立を目指し、併せて人類の健康と医療の発展に寄与することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成14年1月 規模等 土地：524.00㎡ 建物：808.45㎡</p>	
	<p>名称 動物実験センター 目的 研究・教育の用に供するため、実験動物を飼育管理し、実験実施者に対して、実験動物に関する情報を提供することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 昭和63年12月 規模等 土地：624.00㎡ 建物：1,866.70㎡</p>	
	<p>名称 アイソトープ研究センター 目的 放射性同位元素並びに放射線関係の施設及び機器等を総合的に管理し、これを諸分野の研究・教育のための共同利用に提供することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 昭和57年3月 規模等 土地：1,650.00㎡ 建物：1,239.09㎡</p>	
	<p>名称 個体差医療科学センター 目的 地域医療の充実に貢献するため、医科学関連分野における研究を行うことを目的とする。 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 平成17年7月 規模等 土地：6,392.73㎡ 建物：9,702.49㎡</p>	
	<p>名称 北海道医療大学病院 目的 歯学教育等に係る臨床・研究の場として機能するとともに、歯科及び内科の診療を通じて地域医療の向上に寄与することを目的とする。 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 平成17年7月 規模等 土地：6,392.73㎡ 建物：9,702.49㎡</p>	
	<p>名称 歯科クリニック 目的 歯学教育等に係る臨床・研究の場として機能するとともに、歯科の診療を通じて地域医療の向上に寄与することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成17年7月 規模等 土地：3,848.00㎡ 建物：7,772.48㎡</p>	
	<p>名称 心理臨床・発達支援センター 目的 心理臨床、発達支援に関する研究・研修・調査を行うとともに、本学大学院心理学研究科臨床心理学専攻修士課程学生の心理臨床実習の場としての機能を果たすことを目的とする。 所在地 北海道札幌市北区あいの里2条5丁目 設置年月 平成15年6月 規模等 建物：141.9㎡</p>	
	<p>名称 薬学部附属薬用植物園 目的 薬学教育の一環として、学生が薬用植物や生薬についての生きた知識を学ぶとともに、研究に資することを目的とする。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 昭和60年9月 規模等 総面積：2,558.00㎡（内、温室341.46㎡）</p>	
	<p>名称 北方系生態観察園 目的 日本薬局方に記載されている薬用植物をはじめ、様々な野鳥、昆虫、小動物などの観察園として活用することを目的としている。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成13年6月 規模等 総面積：153,000㎡</p>	
	<p>名称 北方系伝統薬物研究センター 目的 絶滅危惧種の栽培法の確立と遺伝子保存を進めるとともに、アイヌが伝承してきた北方系伝統薬物の生物多様性解析を通じて未知の薬効成分を探索して創薬に結びつけることを目的としている。 所在地 北海道石狩郡当別町字金沢1757番地 設置年月 平成21年8月 規模等 土地：342.00㎡ 建物：552.60㎡</p>	

学校法人東日本学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成26年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成27年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
北海道医療大学					→	北海道医療大学					
薬学部	薬学科	160	10	1,000		薬学部	薬学科	160	10	1,000	
歯学部	歯学科	80	-	480		歯学部	歯学科	80	-	480	
看護福祉学部	看護学科	100	9	418		看護福祉学部	看護学科	100	9	418	
	臨床福祉学科	80	9	338			臨床福祉学科	80	9	338	
心理科学部	臨床心理学科	75	2	304		心理科学部	臨床心理学科	75	2	304	
	言語聴覚療法学科	60	10	260			言語聴覚療法学科	0	0	0	平成27年4月 学生募集停止
リハビリテーション科学部	理学療法学科	80	5	335		リハビリテーション科学部	理学療法学科	80	5	335	
	作業療法学科	40	5	175			作業療法学科	40	5	175	
							言語聴覚療法学科	60	10	260	学科の設置 (届出)
計		675	40 10	3,310		計		675	40 10	3,310	
北海道医療大学大学院					→	北海道医療大学大学院					
薬学研究科	生命薬科学専攻(M)	3	-	6		薬学研究科	生命薬科学専攻(M)	3	-	6	
	薬学専攻(D)(4年制)	3	-	12			薬学専攻(D)(4年制)	3	-	12	
歯学研究科	歯学専攻(D)	18	-	72		歯学研究科	歯学専攻(D)	18	-	72	
	看護福祉学研究科	15	-	30			看護福祉学研究科	15	-	30	
看護福祉学研究科	看護学専攻(M)	15	-	30		看護福祉学研究科	看護学専攻(M)	15	-	30	
	看護学専攻(D)	2	-	6			看護学専攻(D)	2	-	6	
	臨床福祉学専攻(M)	5	-	10			臨床福祉学専攻(M)	5	-	10	
	臨床福祉学専攻(D)	2	-	6			臨床福祉学専攻(D)	2	-	6	
心理科学研究科	臨床心理学専攻(M)	10	-	20		心理科学研究科	臨床心理学専攻(M)	10	-	20	
	臨床心理学専攻(D)	2	-	6			臨床心理学専攻(D)	2	-	6	
	言語聴覚学専攻(M)	5	-	10			言語聴覚学専攻(M)	5	-	10	
	言語聴覚学専攻(D)	2	-	6			言語聴覚学専攻(D)	2	-	6	
リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻(M)	5	-	10		リハビリテーション科学研究科	リハビリテーション科学専攻(M)	5	-	10	
							リハビリテーション科学専攻(D)	2	-	6	課程の変更 (届出)
計		72	-	194		計		74	-	200	
北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校					→	北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校					
	歯科衛生科(3年制)	50	-	150			歯科衛生科(3年制)	50	-	150	
計		50	-	150		計		50	-	150	

教育課程等の概要															
(リハビリテーション科学部 言語聴覚療法学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学教育科目	基礎ゼミナール (コミュニケーション実践論)	1前	1					○		3	2	1	2		兼12 共同
	文章指導 (日本語の表現)	1前	1					○		2	3	1	2		兼11 共同
	人間と思想 (心理学)	1後		2			○								兼1 兼1
	人間と思想 (死生学入門)	1前		2			○								兼1 兼1
	人間と思想 (哲学入門)	1前		2			○					1			兼1 兼1
	人間と文化 (文化人類学)	1前		2			○								兼1 兼1
	人間と文化 (環境の歴史)	2後		2			○								兼1 兼1
	人間と文化 (国際文化比較論)	2前		2			○								兼3 オムニバス
	人間と社会 (社会学入門)	1前		2			○								兼1 兼1
	人間と社会 (医療の経済学)	1後		2			○								兼1 兼1
	人間と社会 (医療の法学)	1後		2			○								兼1 兼1
	人間と社会 (国際社会福祉論)	3前		2			○								兼3 オムニバス
	自然と科学 (生命科学)	1前	2				○								兼1 兼1
	英語 I (オーラル・イングリッシュA)	1前	1					○							兼3 共同
	英語 I (オーラル・イングリッシュB)	2前	1					○							兼2 共同
	英語 II (英語A)	1後		1				○				1			
	英語 II (英語B)	2後		1				○				1			
	中国語 (中国語)	1前		1				○							兼1 兼1
	韓国語 (韓国語)	2後		1				○							兼1 兼1
	フランス語 (フランス語)	2後		1				○							兼1 兼1
	ドイツ語 (ドイツ語)	2前		1				○							兼1 兼1
	情報処理演習 (情報処理演習)	1前	1					○				1			
	統計学 (基礎統計学)	1後	2					○				1			
	健康・運動科学演習 (運動科学演習)	1通	2					○							兼3 共同
	自然科学入門 (基礎数理)	1前		1				○							兼1 兼1
	自然科学入門 (物理学)	1後		2				○							兼1 兼1
	自然科学入門 (生物学)	1後		2				○							兼1 兼1
	自然科学入門 (化学)	1後		2				○							兼1 兼1
	個体差健康科学 (個体差健康科学・多職種連携入門)	1前	2					○		4	2				兼27 オムニバス・共同(一部)
	地域連携 (メディカル・カフェをつくる I)	2前		1				○							兼7 集中・共同
	地域連携 (地域包括ケア演習)	3前		1				○							兼11 共同
	医療倫理 (医療倫理)	1後	2					○				1			兼1 オムニバス・共同(一部)
	多職種連携 (多職種連携論)	3前	1					○				1			兼11 共同
小計(33科目)		-	16	35	0				6	5	3	4	0	兼68 -	
専門教育科目	言語聴覚障害学概論	1後	2				○			1					
	言語聴覚診断学総論	2前	1				○		1	2		2		オムニバス・共同(一部)	
	言語聴覚学総論 I	2前	1				○		1			5		兼3 共同 ※実習	
	言語聴覚学総論 II	3後	1				○		5	5	2	5		共同 ※実習	
	言語聴覚学総論 III	4前	1				○		5	5	2	5		共同 ※実習	
	言語聴覚学総論 IV	4後	6				○		4	5	1	5		兼5 共同	
	言語聴覚学総論 V	4後		2			○		5	5		5		共同	
	基礎人間科学	1前	4				○		1						※実習
	解剖生理学	1後	4				○		1						※実習
	音声言語聴覚医学	1後	3				○		2						オムニバス
	医学総論	2前	1.5				○		4						オムニバス・共同(一部)
	公衆衛生学	2前		2			○								兼1
	遺伝学	2後		1.5			○		1						
	病理学	2前	1				○								兼1
	内科学	2前	2				○								兼5 オムニバス
	小児科学	2前	2				○								兼1
	耳鼻咽喉科学	2後	2				○		1						兼5 オムニバス
	形成外科学	2前	1				○								
	精神医学	2後	1				○		1						
	神経学	2後	1.5				○		1						
リハビリテーション医学	2後	1.5				○		1			4			兼3 オムニバス	
歯科学総論	2後	1				○		1						兼1 オムニバス	
	口腔外科学	2後	1				○								兼1
	音声学	1前	2				○			1		1			オムニバス・共同(一部)
	言語学	1後	2.5				○			1					
	音響学	2前	4				○			1					
	言語発達学	2前	1				○			1		1			兼1 オムニバス・共同(一部)
日本語学	2前		2			○			1						

専門 教育 科目	神経言語学	2後		2		○			1	1					オムニバス
	認知心理学	1前	1.5			○				1					
	学習心理学	1後	1.5			○									兼1
	発達心理学	1後	1.5			○									兼1
	生理心理学	2前		1.5		○									兼1
	臨床心理学	2前	1.5			○									兼1
	心理測定法	2前	1.5			○					1				
	リハビリテーション概論	1前	2			○						1			兼4
	関係法規	2前	1.5			○			1						
	社会保障制度論	3前	1			○									兼1
	社会福祉援助技術論	3前		1		○									兼1
	失語症学Ⅰ	2前	1			○			1	1					オムニバス
	失語症学Ⅱ	2後	1.5			○			1						兼1
	高次脳機能障害学	3前	1.5			○			1	1					オムニバス
	言語発達障害学	2後	2			○				1					オムニバス・共同(一部)
	言語発達障害学特論	3前	2			○				2		1			オムニバス・共同(一部)
	成人発声発語障害学	3前	4			○			2			1			オムニバス
	小児発声発語障害学	3前	2.5			○			1						
	摂食嚥下障害学	3前	2			○			2			1			オムニバス
	成人聴覚障害学	2後	2			○			1	1		1			オムニバス・共同(一部)
	小児聴覚障害学	3前	2			○			1	1		1			オムニバス・共同(一部)
	失語症学演習Ⅰ	3前	1				○		1			1			共同
	失語症学演習Ⅱ	3後	1				○			1		1			共同
	高次脳機能障害学演習	3後	1				○		1	1		1			オムニバス・共同(一部)
	言語発達障害学演習	3後	2				○			1		1			オムニバス・共同(一部)
	成人発声発語障害学演習	3後	2				○		1			2			オムニバス
	小児発声発語障害学演習	3後	1				○		1			1			オムニバス・共同(一部)
	摂食嚥下障害学演習	3前	1				○					2			オムニバス・共同(一部)
	聴覚障害学演習	3通	3				○			1		1			共同
	基礎実習	3後	2					○	5	2		4	1		共同
	総合実習	4前	10					○	5	5	2	4	1		共同
	小計(59科目)	-	104.5	12.0	0		-		7	5	2	5	1		兼33
英語論文講読・研究法	3後		1.5			○			3						オムニバス・共同(一部)
言語聴覚ゼミナールⅠ	3後	1				○		5	5	1	5				共同
言語聴覚ゼミナールⅡ	4通		1			○		5	5	1	5				共同
卒業研究	4通		1			○		5	5	1	5				共同
小計(4科目)	-	1	3.5	0		-		5	5	1	5	0		兼0	-
合計(96科目)	-	121.5	50.5	0		-		7	5	3	5	1		兼87	-
学位又は称号	学士(言語聴覚療法学)			学位又は学科の分野				保健衛生学関係(リハビリテーション関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
全学教育科目27単位(うち必修16単位)、専門教育科目106.5単位(うち必修105.5単位)、 総計133.5単位以上(うち必修121.5単位)修得しなければならない。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				80分			

教育課程等の概要

(心理科学部 言語聴覚療法学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学教育科目	基礎ゼミナール (人間科学入門)	1前	2					○		2				1		共同
	文章指導 (科学的文章の書き方)	1前		2				○			1					
	人間と思想 (科学技術社会と倫理)	2後		2			○					1				
	人間と思想 (哲学の冒険)	1前		2			○			1						
	人間と思想 (芸術とフランス思想)	2後		2			○									兼1
	人間と思想 (生命倫理学)	2後		2			○									兼1
	人間と文化 (ヨーロッパの歴史と文化)	1前		2			○									兼1
	人間と文化 (心理言語学)	2前		2			○				1					兼1
	人間と文化 (フランス文化)	2後		2			○									兼1
	人間と社会 (社会学入門)	1前		2			○									兼1
	人間と社会 (市場経済と病院経営)	1後		2			○									兼1
	人間と社会 (心理学の歴史)	1後		2			○									兼1
	人間と社会 (法学概論)	2後		2			○									兼1
	人間と社会 (国際社会における貧困)	2後		2			○									兼1
	自然と科学 (ヒトと人間の科学)	1前		2			○									兼1
	自然と科学 (技術と人間)	1前		2			○									兼1
	自然と科学 (物質の科学)	1前		2			○									兼1
	自然と科学 (生命の科学)	1後		2			○									兼1
	英語 I (オーラル・イングリッシュA)	1前	1						○							兼2
	英語 I (オーラル・イングリッシュB)	1後	1						○							兼2
	英語 II (英語A)	2前	1						○							兼1
	英語 II (英語B)	2後	1						○			1				兼1
	英語 III (リーディングA)	1前		1					○							兼1
	英語 III (総合英語)	2前		1					○							兼1
	フランス語 (フランス語)	1後		1					○							兼1
	ドイツ語 (ドイツ語)	1後		1					○							兼1
	情報科学 (情報科学)	1後		2				○					1			
	情報処理演習 (情報処理演習 I)	1前	1						○				1			
	情報処理演習 (情報処理演習 II)	1前	1						○				1			
	統計学 (基礎統計学)	1後	2					○					1			
	健康・運動科学 (運動科学)	1前		2				○								兼2
	個体差健康科学 (個体差健康科学・多職種連携入門)	1前	2					○			3	2				兼28
	地域連携 (メディカルカフェをつくる)	1前		2					○					1		兼7
	地域連携 (地域ボランティア論)	1後		2					○							兼1
	医療倫理 (医療倫理)	1前		2					○					1		兼1
小計(35科目)	-	-	12	48	0			-		6	4	3	1	0	兼51	-
専門教育科目	言語聴覚障害学概論	1後	2					○						1		
	言語聴覚診断学総論	2前	1					○					2			オムニバス・共同(一部)
	言語聴覚学総論 I	2前	1					○						1	2	兼3
	言語聴覚学総論 II	3後	1					○					2	5		兼3
	言語聴覚学総論 III	4前	1					○					2	5		兼3
	言語聴覚学総論 IV	4後	6					○					1	5		兼5
	言語聴覚学総論 V	4後		2				○					5	5		兼5
	基礎人間科学	1前	4					○						2		
	解剖生理学	1後	4					○						2		
	音声言語聴覚医学	1後	3					○						2		
	医学総論	2前	1.5					○						4		
	公衆衛生学	2前		2				○								兼1
	遺伝学	2後		1.5				○								兼1
	病理学	2前	1					○								兼1
	内科学	2前	2					○								兼5
	小児科学	2前	2					○								兼1
	耳鼻咽喉科学	2後	2					○					1			兼1
	形成外科学	2前	1					○								兼5
精神医学	2後	1					○						1			
神経学	2後	1.5					○						1			
リハビリテーション医学	2後	1.5					○						4			
歯科学総論	2後	1					○						1			
口腔外科学	2後	1					○								兼1	
音声学	1前	2					○					1				
言語学	1後	2.5					○					1				
音響学	2前	4					○					1				

専門 教育 科目	言語発達学	2前	1			○			1		1	兼1	オムニバス・共同(一部)	
	日本語学	2前		2		○			1				オムニバス	
	神経言語学	2後		2		○		1	1					
	認知心理学	1前	1.5			○			1					
	学習心理学	1後	1.5			○						兼1		
	発達心理学	1後	1.5			○						兼1		
	生理心理学	2前		1.5		○						兼1		
	臨床心理学	2前	1.5			○						兼1		
	心理測定法	2前	1.5			○				1				
	リハビリテーション概論	1前	2			○			1			兼4	オムニバス	
	関係法規	2前	1.5			○		1						
	社会保障制度論	3前	1			○						兼1		
	社会福祉援助技術論	3前		1		○						兼1	集中	
	失語症学Ⅰ	2前	1			○		1	1				オムニバス	
	失語症学Ⅱ	2後	1.5			○		1				兼1	オムニバス	
	高次脳機能障害学	3前	1.5			○		1	1				オムニバス	
	言語発達障害学	2後	2			○			1		1		オムニバス・共同(一部)	
	言語発達障害学特論	3前	2			○			2		1		オムニバス・共同(一部)	
	成人発声発語障害学	3前	4			○		2			1		オムニバス	
	小児発声発語障害学	3前	2.5			○		1						
	摂食嚥下障害学	3前	2			○		2			1		オムニバス	
	成人聴覚障害学	2後	2			○		1	1		1		オムニバス・共同(一部)	
	小児聴覚障害学	3前	2			○		1	1		1		オムニバス・共同(一部)	
	失語症学演習Ⅰ	3前	1				○	1			1		共同	
	失語症学演習Ⅱ	3後	1				○		1		1		共同	
	高次脳機能障害学演習	3後	1				○	1	1		1		オムニバス・共同(一部)	
	言語発達障害学演習	3後	2				○		1		1		オムニバス・共同(一部)	
	成人発声発語障害学演習	3後	2				○	1			2		オムニバス	
	小児発声発語障害学演習	3後	1				○	1			1		オムニバス・共同(一部)	
	摂食嚥下障害学演習	3前	1				○				2			
	聴覚障害学演習	3通	3				○		1		1		共同	
	基礎実習	3後	2					○	5	2	4	1	共同	
	総合実習	4前	10					○	5	5	2	4	1	共同
	小計(59科目)	-	104.5	12.0	0	-			6	5	2	5	1	兼34
英語論文講読・研究法	3後		1.5			○			3				共同	
言語聴覚ゼミナールⅠ	3後	1				○		5	5	1	5		共同	
言語聴覚ゼミナールⅡ	4通		1			○		5	5	1	5		共同	
卒業研究	4通		1			○		5	5	1	5		共同	
小計(4科目)	-	1	3.5	0	-			5	5	1	5	0	兼0	-
合計(98科目)	-	117.5	63.5	0	-			7	5	3	5	1	兼77	-
学位又は称号	学士(言語聴覚療法学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(リハビリテーション関係)							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
全学教育科目28単位(うち必修12単位)、専門教育科目111単位(うち必修105.5単位)、 総計139単位以上(うち必修117.5単位)修得しなければならない。 (履修科目の登録の上限:55単位(年間))							1学年の学期区分			2学期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			80分				

授業科目の概要

(リハビリテーション学部言語聴覚療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 教育 科目	基礎ゼミナール（コミュニケーション実践論）	初年次の学生が、大学の教育環境に早い時期から適応することは重要である。高校までの受動的な学習から能動的で自律的な学習態度への転換を図ることを本授業の目的とする。本学部・学科の教員が出勤して、少人数グループ形態で実施する。グループワークを通して、調べる・整理する・まとめる・伝えるの力を身につける。また、自らの活動の振り返り作業も行う。それらの一連の活動を通じて、コミュニケーションやプレゼンテーションの能力を培い、ものの見方や考え方などの知の技法を学ぶ。	共同
	文章指導（日本語の表現）	本講義では、大学生活を送る上で必要となる日本語表現力や社会人として求められる基礎的な日本語表現力を身につけることを目的とする。大学生として必要なノートの取り方やメールの書き方、レポートの書き方やプレゼンテーションの方法などを講義と演習を通して学ぶ。また、臨床実習など学外の実社会で求められることの多い敬語の基礎や確実な連絡メモの取り方、他者への説明の仕方などについても同様に講義と演習を通して学ぶことで幅広い表現力を身につけることを目標とする。	共同
	人間と思想（心理学）	心理学とは、人間の行動や心的過程を科学的に探求する学問である。対象とする領域は非常に広く、基礎分野から応用分野まで多岐にわたる。本講義では、心理学に関する広範な領域の中から代表的なテーマをとりあげ概説することによって、心理学の基本的発想を学ぶとともに心理学がどのようにわれわれの生活と結びついているかを理解する。また、医療の中での最近の心理学のテーマについても取り上げ、医療の中で心理学が果たす役割について理解する。	
	人間と思想（死生学入門）	死生学が求められているのは、医療現場だけではなく。特に、高度の医療専門職業人を育てる教育現場でも「死生観教育」への強い要望があり、学生たちに「いのちの尊厳」について教えることが求められています。死に向き合う術を見失った現代、そして、葬送儀礼や墓制が急速に変化し、慰霊や追悼のあり方にも論争が生じている今こそ、死だけを切り離して考察するのではなく、生殖や誕生、病や老いといった人生の危機にどう向き合うか、これらも死生学の重要な課題なのです。	
	人間と思想（哲学入門）	哲学は、本来原理的、批判的思考であり、その意味で諸学問や世界を生きるいわば根幹を模索する営みである。この哲学の本来の意味を訪ね、また科学的な世界の本質を考察する。教員による講義だけでなく、小レポートの活用により紙上討論の形もとり、一方的な知の伝達ではなく、自ら考え、また相互の意識交通を図る内容とする。哲学の原理的、批判思考と科学的思考の違いを知ると共に、現代を理解し、生き抜くために、問いの転換に着目し、越境的、冒険的な知に迫ることで、世界や自己について理解する。	
	人間と文化（文化人類学）	ヒトは生きるための先天的な能力に代わり、自らの生き方＝文化を後天的に学習することによって生きることを選択した生物である。この講義では、文化的存在としてのヒトの生の根源について考察するとともに、世界の多様な文化についてとりあげ、異なるものの見方や価値観をもつ異文化を理解するための視点と方法について学ぶ。異質な他者との比較を通して、自分たちがあたり前とする自文化に拘束された考え方を見直し、文化的存在としてのヒトの普遍性と多様性について理解し、説明できる能力を習得す	
	人間と文化（環境の歴史）	人間と環境との関わりの歴史を講義する。現代の人間社会において、環境問題は最優先に取り組むべき課題である。とりわけ人間の健康は、自然環境や社会経済の変化と密接な関係を持っている。具体的には、地域間の文明交流や人間の開発行為が自然や社会経済の環境を作り変え、また人間がその影響を受けてきた歴史を考察する。取り上げるテーマは、感染症の流行、森林伐採などである。	
	人間と文化（国際文化比較論）	世界には独自のものの見方や価値観をもつ多様な文化が存在しており、異なる文化をもつ人々のあいだで摩擦が起こり、ひどく対立し合うこともしばしばある。多様な文化をもつ人々がいかに平和に共生することができるのかは、グローバル化が進む現代世界の大きな課題である。この講義では、多様な異文化に触れ、その差異を学ぶことを通じ、他者との共生の道について考えるための国際的視野と異文化理解の方法を習得する。 (オムニバス方式／全15回) (33 花潤馨也／5回)アフリカの文化について取り上げる (35 ハワード・ターノフ／5回)アメリカの文化について取り上げる。 (34 半田祐二郎／5回)スリランカやアフリカの文化について取り上げる	オムニバス方式
	人間と社会（社会学入門）	社会学とは高校までの社会学とは異なる。また、社会学は同じ社会科学に属する法学や経済学とも区別されるが、それは単に考察対象が違うのではなく、同じ対象であっても分析・考察する視点や概念が異なることによる。社会学のキーワードには、例えば「相互行為とコミュニケーション」「地位と役割」「社会関係」「同調と逸脱」「集団と組織」「インフォーマル・グループ」「社会階層と社会移動」などがある。これらの概念を駆使して、他の学問とも異なり、「常識的な見方」とも異なる独自の分析・考察を提供するところに社会学の面白さがある。	
人間と社会（医療の経済学）	医療経済学は、医療の現場で起こっている様々な現実を経済学の視点でとらえ、医療と経済の望ましい関係を明らかにするための学問である。この講義では、少子高齢化やグローバル化や財政赤字の累積という21世紀の厳しい諸条件の下で進まざるをえない医療保障制度の再編の方向性について考えることを中心課題とする。		

授業科目の概要

(リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 教育 科目	人間と社会（医療の法学）	<p>法学の基礎を学んだ上で、医療に関する法について学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法律や法学に関する基本的知識を身につける。 2. 法を学ぶことを通じて、社会に対する広い視野と深い洞察力を身につける。 3. 医療や福祉に関する法の体系、法の意義・作用の基礎について学ぶ。 4. 医療や福祉に携わる者の資格や業務、責任の基礎について学ぶ。 	
	人間と社会（国際社会福祉論）	<p>グローバル化が進行する現代世界において、医療や福祉は国際的な結びつきの中で捉えるべき問題となっている。この講義では、発展途上国における貧困や疾病の問題、国際援助のあり方をめぐる問題など、人の健康や安全を害する世界の様々な問題について取り上げ、自ら調べ、考え、発表し、討論することを通じ、国際的な視点から医療や福祉の課題について理解し、説明できる能力を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(33 花渕馨也／5回) アフリカが抱える貧困や疾病、紛争などの問題について取り上げる。</p> <p>(34 半田祐二郎／5回) スリランカやアフリカなどの公衆衛生と国際援助の問題について取り上げる。</p> <p>(66 千葉芳広／5回) 東南アジアの経済的貧困の問題などについて取り上げる。</p>	オムニバス方式
	自然と科学（生命科学）	<p>「生命とは何か」、「ヒトとは何か」を科学的に追求し、人間についての理解を深めることを本授業の目的とする。遺伝子科学は多様な分野を巻き込みながら発展し、新たな生命像が浮き彫りになっている。授業では、最初に生命の「中心教義」について学び、ヒトゲノム構造の特徴を理解する。それらの分子生物学的な知識を土台にして、さらに「ABO式血液型と遺伝子」・「がんとがん遺伝子」・「肥満」・「体内時計」・「性の分化」・「個体の老化」・「免疫にみる自己と非自己」・「脳と心の働き」など</p>	
	英語Ⅰ（オーラル・イングリッシュA）	<p>This course is designed to increase the level of oral skills by a multi-media driven approach. Students are placed in a variety of everyday situations in order to practice their oral skills. Listening is a key element for this class and will enhance the development of overall communicative competency.</p> <p>(和訳)</p> <p>この講義ではマルチメディアを使用し、日常のさまざまな状況下に学生を置いてオーラルスキルのレベルを向上させることを目的とする。リスニングはこの講義の重要な要素であり、総合的な英語伝達能力の向上を図る。</p>	共同
	英語Ⅰ（オーラル・イングリッシュB）	<p>This course is designed for students who will enter healthcare related professions upon graduation. The student will be taught the English names of all major parts of the body and some of the illnesses and conditions that can affect it. Exposure to healthcare terminology and a wide variety of situations that can take place in and around a hospital will be presented.</p> <p>(和訳)</p> <p>この講義では卒業後に保健医療に携わる学生のために、主な身体の部位や病気および健康状態の英語名を教え、活用できるようにする。保健医療の専門用語や病院などで発生する様々な状況を学ぶ機会を与える。</p>	共同
	英語Ⅱ（英語A）	<p>英語によるコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度の育成を目指す。平易な英語で書かれたり話されたりする内容を的確に理解し、それに対する自分の考えを適切に伝える能力を養い、それを社会生活において活用できることを目指す。また、異文化間能力の養成を目標にし、英語を通じて、外国の事情や異文化について理解を深めると同時に、異文化が接触する際に生じる否定感情をコントロールする能力を養うことを目指す。さらに自分の専門分野の基礎的なテーマに関する英語を的確に理解する能力を養</p>	
	英語Ⅱ（英語B）	<p>英語によるコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度の育成という点で英語Aと共通である。英語Aを土台として、標準的かつ専門的な英語で書かれたり話されたりする内容を的確に理解し、それに対する自分の考えを適切に伝える能力を養い、それを社会生活において活用できることを目指す。また、英語Aで養成した異文化間能力をさらに高め、より職能人を意識した応用力養成に視点を移す。つまり、自分とは異文化に生きる他者、患者、他の医療人と円滑にコミュニケーションが図れるような異文化間能力を養成する。</p>	
	中国語（中国語）	<p>このクラスでは、中国語の発音、文法および会話と、ゼロからの学習者を中心に講義を展開する。とりわけ、日本人学習者にとって最難関といわれる発音（四声）に関して、徹底した指導を行うとともに、学習者に苦手意識を持たせぬよう、日常に役立つフレーズや文法事項を分かり易く解説しながら、学習者が中国語を話すことに楽しさを感じられるよう期待する。また、語学的指導以外に、中国の文化や習慣の違い等についても、日本と比較しながら触れてゆく。</p>	
	韓国語（韓国語）	<p>韓国語の入門課程として、文字や発音の紹介、そして基本文型を中心とした韓国語の仕組みが解るよう基礎的文法の解説をまじえながら辞書を用いて韓国語の文章が理解できるように説明する。また、韓国人との交流や生活文化の理解に役立つ簡単な日常会話ができるように、500から800ぐらいの単語習得を目標に読み書きと共に基礎会話の練習を並行して行う。</p>	
	フランス語（フランス語）	<p>フランス語のしくみについて、音の綴りの対応関係基本的言語構造、フランス語と英語の共通性と異質性などについて理解する。</p>	

授業科目の概要

(リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学教育科目	ドイツ語（ドイツ語）	この授業は、簡単な会話文と初級文法を中心に学ぶ初級者のためのドイツ語講座である。ドイツ語の読み・書き・会話における基礎的な力を身に付けることを主な目標としている。また、ドイツ語圏の現状や文化についても理解を深めるために、ドイツ語と日本語の違い、あるいはドイツ人と日本人の価値観の違いについてなど様々な問題提起を行っていく。さらに、言語を通して異文化に触れることで、多文化共生の問題にもアプローチしていく。	
	情報処理演習（情報処理演習）	コンピュータのリテラシースキルを習得する科目である。本講では主として、文書作成、表計算、プレゼンテーション、およびインターネットの活用に関する演習を中心に進める。	
	統計学（基礎統計学）	保健医療の分野において、研究、調査、診療などによって得られるデータは、多量で複雑であったり、バラツキがあったりすることが多いが、実際には有用な情報を含んでいる。基礎統計学では、このようなデータから全体に関する有用な情報を引き出す方法	
	健康・運動科学演習（運動科学演習）	「健康・体力づくりに関する基礎的知識、運動の必要性、および科学的根拠に基づいた具体的な運動トレーニング法について演習形式で学習する。また、スポーツ活動の実践を通して、社会性、健康・体力の維持増進、QOL (quality of life) の向上を図る。このような学習によって、健康・体力の維持増進を図るための実践的な能力を身につけ	共同
	自然科学入門（基礎数理）	基礎専門科目や専門科目を学習するのに必要な数学の基礎を学習する。高校までの算数・数学を再確認し、自然科学を学ぶ上で必要な数学的素養と思考力を身につける基礎を養う。	
	自然科学入門（物理学）	身近な物体の運動を題材として、運動の表し方や運動する物体が従う法則について説明し、運動量や力学的エネルギー等の力学の基本概念を解説する。また、静止した物体に作用する力のつり合いを題材として、力のモーメントや重心等の静力学の基本概念についても解説する。更に、音や光の波動現象を取り上げ、波動の概念および反射や回折等の波動が従う法則について説明し、医用工学の基礎となる超音波や電磁波およびX線の物理について解説する。	
	自然科学入門（生物学）	ヒトにまつわる生物学の諸分野を幅広く学び、「生物の原則」を知る。また医療系教育に必要な「ヒトに関する基本」を身につけることを本授業の目的とする。あらゆる生命体は、「生命の単位」・「生命の維持」・「生命の連続」という点において共通するしくみをもつ。それらの内容についてヒトを中心にして学ぶ。また、それらのしくみとは一見相矛盾する「生命の多様性」についても理解を深める。高校「生物」未履修の学生に対しても、無理なく学習できるように授業を進める。	
	自然科学入門（化学）	生体内で起こる化学反応は生命活動を支える源として、あるいは精神活動に大きな影響を及ぼしており、また、身体を構成する筋、骨組織などの構成成分はすべて化学物質から成り立っている。これらの化学反応と化学物質の性質や特徴を理解することは、理学療法や作業療法など人の活動をサポートしていく上で重要な基礎的知識の一つとなる。本講義では、物質や物質を構成する原子、それらの繋がりにより生み出される物質の化学的性質、また、それが担う基本的な理論・法則を理解することにより、リハビリテーション科学を学ぶものに必要な化学的理解力、応用力を身につけることを目的とする。	

授業科目の概要

(リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学教育科目	個体差健康科学 (個体差健康科学・多職種連携入門)	現代社会における保健・医療・福祉では、個体差に基づいた個人に最も適したケア、個人の人格を尊重し、個人を最も幸福にするケアが求められており、そのためには、複数の専門職業人が協働する多職種連携が必要とされる。この講義では、医療系総合大学としての本学が掲げる「新医療人」に求められる個体差健康科学、および多職種連携の理念と方法、その具体的実践について理解するため、全学部学科の学生が共に学ぶ。(オムニバス方式/全15回) (77 櫻田 渉・41 齊藤正人・33 花淵馨也・66 千葉芳広・11 田村 至/1回) (共同) ガイダンス (39 唯野貢司・34 半田祐二郎・44 志水 幸・73 浅野葉子・46 堀内ゆかり・1 木下憲治/1回) (共同) 個体差と多職種 (78 浜上尚也・80 中山 章・45 小林正伸・25 鈴木英樹・47 坂野雄二・6 太田 亨/1回) (共同) 個のためのケア (40 遠藤 泰・81 荒川俊哉・45 小林正伸・66 千葉芳広・47 坂野雄二・6 太田 亨/1回) (共同) 個のためのケア (77 櫻田 渉・40 遠藤 泰・39 唯野貢司・59 千葉 薫・80 中山 章・78 浜上尚也・79 吉田栄一/2回) (共同) 多職種連携入門(薬学と多職種連携) (43 越野 寿・81 荒川俊哉・41 齊藤正人・82 豊下祥史・42 中山英二・34 半田祐二郎/2回) (共同) 多職種連携入門(歯科医学と多職種連携) (84 宮崎友香・2 亀井 尚・3 今井智子・10 玉重詠子・11 田村 至/2回) (共同) 多職種連携入門(心理学と多職種連携) (60 竹生礼子・61 大友芳恵・45 小林正伸・44 志水 幸・33 花淵馨也/2回) (共同) 多職種連携入門(看護学と臨床福祉学と多職種連携) (73 浅野葉子・83 佐々木祐二・70 澤村大輔/2回) (共同) 多職種連携入門(リハビリテーション科学と多職種連携) (21 泉 唯史/1回) 新医療人とは	オムニバス方式 共同(一部)
	地域連携(メディカルカフェをつくるI)	市民と専門家との双方向コミュニケーションの「場」となる「メディカル・カフェ」を企画・設計し、実施に向けて活動を行う参加型形態の授業である。多様な医療職種を目指す本学の学生からなるグループのもとで、互いに協働して、医学・医療・健康などをテーマとする市民参加型のイベントを地域と連携して開催する。さまざまな主体的な活動体験を通じて、医療専門家のコミュニティワークに必要なコミュニケーションおよびイベント運営などに関するスキルを学ぶ。	集中・共同
	地域連携(地域包括ケア演習)	本学が所在する当別町をはじめ、北海道内の様々な地域の地域ケア関係機関との協働のもと、人々が住みなれた地域で安心して暮らせるような取り組みを試行的に行う。専任教員の指導のもと、各グループに分かれて、試行的事業の立案、関係機関への事業提案、事業の試行的実施、振り返りといった一連の過程の経験を通じて、地域包括ケアのイメージを具体化させるとともに、地域包括ケアに対するセラピストの参画意義について考察を行う。	共同
	医療倫理(医療倫理)	医療従事者として身につけておかなければならない生命倫理・医療倫理の概要を、講義形式だけではなく、映像資料を適宜参照したり、ワークショップやグループワークなどを実施し能動的に学ぶ。授業の前半では森元が「倫理的な考え方の基本」について、後半では磯部が「生命倫理・医療倫理の基本」について担当する。 (オムニバス方式/全15回) (15 森元良太/6回) 倫理学概説/義務論/功利主義/最大幸福原理と平等原理/功利主義の難点とその克服/グループワークと発表 (74 磯部太一/7回) 生命倫理・医療倫理の誕生と展開/「患者-医療者」関係/インフォームド・コンセント/安楽死と治療停止/脳死と臓器移植/医療の役割/グループワークと発表 (15 森元良太・74 磯部太一/2回) (共同) ガイダンス、まとめ	オムニバス方式 共同(一部)

授業科目の概要

(リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	多職種連携（多職種連携論）	医学的な視点のみならず、対象者の社会的・心理的な視点にも配慮した医療が求められる中でチーム医療は必須の手段であり、より良いリハビリテーションを実践するためには多専門職種との有機的な連携と協業は欠かせない。本講義では、専門職種間の有機的な連携と協業についての基礎知識や理論、連携のためのマネジメントの実践についてそれぞれの専門的な立場から考察し、多職種連携が果たす役割や機能について学ぶ。	共同
専門教育科目	言語聴覚障害学概論	言語聴覚障害の入門として、音声言語病理学・聴能学の学問背景と基本的事項が提供される。2年次の言語聴覚学総論や診断学、3年次の専門各論・演習の導入となっている。本講義では、 1. 言語聴覚障害及び音声言語病理学・聴能学の学問・臨床の歴史 2. 言語聴覚障害の基本的事項（定義、原因、疫学、症候、評価・鑑別診断、代表的な治療法、今日の課題） 3. 言語聴覚障害の臨床と基礎研究の関連性 などについて学ぶ。	
	言語聴覚診断学総論	言語聴覚療法の臨床のなかで、特に評価・診断に焦点をあてて講義を行う。評価における検査の位置づけと意義を理解したうえで、言語聴覚障害の評価・診断に関わる種々の検査法・評価法・診断法の理論、実施の原則について、言語聴覚士が扱う5つの障害分野（聴覚障害、失語・高次脳機能障害、言語発達障害、発声発語障害、摂食嚥下障害）別に学ぶ。この科目は2年次後期および3年次に配置されている言語聴覚障害学の各論および演習の基礎となる科目である。 (オムニバス方式／全8回) (3 今井智子／3回) 検査の基本、発声発語障害 (10 玉重詠子／1回) 聴覚障害 (11 田村 至／1回) 失語・高次脳機能障害 (19 飯泉智子／1回) 摂食嚥下障害 (17 小林健史／1回) 言語発達障害 (3 今井智子・10 玉重詠子・11 田村 至・19 飯泉智子・17 小林健史／1回) (共同) 障害分野統括	オムニバス方式 共同(一部)
	言語聴覚学総論Ⅰ	言語聴覚療法の臨床を早期体験する授業である。この講義・実習を通して、言語聴覚士に必要な医療人としての基本的態度および言語聴覚療法に関連する知識・技能の習得の重要性を認識する。	共同 ※実習12時間 ※講義10時間
	言語聴覚学総論Ⅱ	総合実習への導入を容易にするために行われる実習である。教員による評価の方法として、客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する。OSCEは、ある時間で定められたタスクをひとつの単位（ステーション）で行い、各ステーションでは、評価者が定められた評価基準に従って被験者の臨床能力を評価する。	共同 ※実習4時間 ※講義14時間
	言語聴覚学総論Ⅲ	総合実習への導入を容易にするために行われる実習である。教員による評価の方法として、客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する。OSCEは、ある時間で定められたタスクをひとつの単位（ステーション）で行い、各ステーションでは、評価者が定められた評価基準に従って被験者の臨床能力を評価する。	共同 ※実習4時間 ※講義14時間
	言語聴覚学総論Ⅳ	大学を卒業し医療の現場で医療人・言語聴覚士として活躍するには、学士課程において学んだ知識がいつでも実際に使える形で定着している必要がある。この授業では、学士課程を修了するためにこれまでの講義で学んできた知識を再確認し、確実なものとする。単位認定試験により知識の定着度を客観的に評価する。	共同
	言語聴覚学総論Ⅴ	言語聴覚学に関係する各領域（失語・高次脳機能障害、言語発達障害、聴覚障害、発声発語障害、摂食嚥下障害）のより高度な専門知識を学ぶ。言語聴覚療法学科の専門教員が各専門領域の最先端の研究成果を紹介する。一歩進んだ言語聴覚学を学びたいモチベーションの高い学生や将来、大学院進学を考えている学生にお勧めの科目である。	共同
	基礎人間科学	後期の解剖生理学につづく科目として、人体の構造（解剖）と機能（生理）とを科学的に把握することによって、チーム医療の基本となる医学的基礎知識、および言語聴覚障害学につながる初歩的な以下の解剖生理学の知識を身につける。 細胞・細胞小器官、組織、骨学、筋学、心臓の構造・機能、血圧測定、心臓の刺激伝導系と心電図、血管系、心臓の解剖実習、血圧実習、心電図、心電図実習、咽頭喉頭、人体解剖見学、咽頭・喉頭解剖実習、呼吸器の構造と機能、呼吸機能実習（スパイロメーター）、血液ガス分析実習（パルスオキシメーター）、舌・口蓋・鼻腔・咽頭・喉頭、発声発語、嚥下に関係する筋、喉頭鏡観察実習	※実習20時間 ※講義50時間
	解剖生理学	基礎人間科学に続く学問として、言語聴覚士の専門性の基本となる人体の構造と機能の医学的基礎知識を身につける。特に、言語聴覚士が対象とする疾患に関与する器官については、基礎人間科学と同様、早期に重点的に行う。これらを通し、言語聴覚学・関連の障害学などの臨床に結びつく基礎を作る。	※実習4時間 ※講義58時間

授業科目の概要

(リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	音声言語聴覚医学	<p>・音声・言語・聴覚に関する構造、機能（しくみ）を解剖学、生理学の基礎から理解し、音声言語聴覚医学の基盤に基づいてコミュニケーション障害の病態に対する基本的な概念を形成する。</p> <p>・音声・言語・聴覚的活動の理解に資するため、それを広く取り巻く脳神経活動を包括的に理解する。</p> <p>・認知・神経科学の基礎となる中枢神経系の構造・生理学的知見を学ぶ。あわせて基本的な高次脳機能障害について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全23回)</p> <p>(4 西澤典子／11回) 音声言語聴覚医学への導入、運動の神経科学（抹消運動系と発声発語）、知覚の神経科学（抹消聴覚路）、音響と音声、喉頭の構造、呼吸調節、喉頭調節、構音器官の構造と機能、構音調節、嚥下</p> <p>(5 中川賀嗣／12回) 運動の神経科学（神経伝導路と発声発語）、知覚の神経科学（中枢への各感覚路）、視覚情報の脳内処理、体性感覚情報の脳内処理、言語の諸相、行為・動作の発現機序、前頭葉機能等を含めた行動神経学、記憶の各側面、脳梁の役割</p>	オムニバス方式
	医学総論	<p>発表担当のグループは全員で役割を決め、十分な予備学習に基づいた責任のある発表を行うように心がけること。参加者全員が当日のテーマについて予習の上、学習内容についてそれぞれ課される課題をまとめること。</p> <p>(オムニバス方式／全12回)</p> <p>(4 西澤典子／4回) 医療接遇、感染対策、医療面接</p> <p>(3 今井智子／3回) チーム医療、リハビリテーション、EBM</p> <p>(1 木下憲治／2回) 疫学、医療・研究の倫理</p> <p>(5 中川賀嗣／2回) 公衆衛生、健康管理</p> <p>(4 西澤典子・3 今井智子・1 木下憲治・5 中川賀嗣／1回) (共同) 学生参加型授業とは</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	公衆衛生学	<p>公衆衛生の原義は「すべての人の生命と生活を守る」ことである。この科目では、「生活の中で健康をどう考えたらよいのか」について広範囲に探求する。本講義では、公衆衛生の視点を獲得し、視野を広めることを目的として以下の項目について理解を深める。</p> <p>1. 公衆衛生の目的・課題</p> <p>2. 攻守衛星の実践活動</p>	
	遺伝学	<p>ヒトゲノム計画により2003年にはヒト遺伝子のほぼ全てが明らかにされ、その数は約3万前後といわれている。ポストシーケンス時代を迎えて、医療関係者は遺伝学のないし遺伝子とどのように向き合うのが問われている。自然科学としての遺伝学だけでなく、それを医療に応用した場合の便益を知ること、そしてその知識に基づいて、遺伝病を抱える患者、その家族にどのように対応するかを踏まえ、以下について学ぶ。</p> <p>出生前検査と着床前検査（遺伝学的検査のガイドライン）、遺伝学的検査・発症前診断の倫理、遺伝カウンセリング、遺伝医学総論、遺伝学的検査、形式遺伝学と遺伝性疾患、染色体異常、遺伝性疾患各論、がん、発症、免疫の遺伝学、分子遺伝学の進歩</p>	
	病理学	<p>言語聴覚士を志す者として、疾病の本態を理解するために、体全体に共通してみられる基本病変をその原因とともに学習し、それにより起こる身体の変化について学ぶ。主な項目は、細胞と組織、循環障害、代謝異常、炎症と免疫異常、疾病と年齢、がん、各臓器組織の疾病の特徴などである。</p>	

授業科目の概要

(リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	内科学	<p>医学の発展とともに日々変化していく医療の実際を学ぶためには、その基礎をなす内科疾患についての理解を深めることが重要である。このため内科疾患の病因、病態生理、症候、診断、検査、治療に関する知識を系統的に修得することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(52 中野倫仁／5回) 循環器疾患、腎疾患 (50 辻 昌宏／2回) 内科学総論、生活習慣病、代謝性疾患、内分泌疾患 (51 伊藤昭英／3回) アレルギー、自己免疫疾患、感染症、呼吸器疾患 (45 小林正伸／3回) 消化管疾患、肝胆膵疾患、血液疾患 (65 森谷 満／2回) 心身症</p>	オムニバス方式
	小児科学	<p>子どもは小さな大人ではないといわれる。子どもは成長・発達する存在だからである。子どもの身体的発育や精神発達の特徴を学び、さらに小児に関連する疾患・医療・保健など関連知識の習得法を学ぶ。具体的には、以下の項目の理解を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の身体的発育の特徴 2. 小児の生活環境と栄養・健康管理の問題 3. 小児医療の今日の問題点 4. 小児の慢性疾患、難治性疾患の病態と治療、関連社会資源について学び、いかに子供や家族を支援すべきかを考察する。 5. 小児医療や小児対象の臨床研究の場で必要な生命倫理的配慮 	
	耳鼻咽喉科学	<p>耳鼻咽喉科学は、聴覚音声言語によるコミュニケーションにおける入力～出力系の先端にある「みみ、はな、のど」の病態を学ぶものであり、言語聴覚士の業務に直結する臨床科目である。第一学年で履修した「解剖生理学」、「音声言語聴覚医学」によって、必要な解剖、生理を理解しているとの前提のもとに、ここでは、病理、臨床に重点をおき、疾患学、診断治療学を履修する。とくに耳科学総論、各論については、平行して開講される「成人聴覚障害学」と関連づけて、聴覚医学全体を俯瞰する。</p>	
	形成外科学	<p>形成外科は、身体の主に体表部分における変形、欠損に対して、整容性と機能性の両者を修復再建する診療科である。先天性外表異常や外傷後、手術後など後天的変形における、治療意義を理解し、その手技の概略を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(99 小山明彦／3回) 先天性形態形成不全(唇顎口蓋裂、頭蓋顔面の症候群、小耳症、多指症) (103 古川洋志／2回) 形成外科学総論、身体各部位の再建外科 (104 舟山恵美／1回) あざのレーザー治療、硬化療法 (105 林 利彦／1回) 皮膚がん (102 村尾尚規／1回) 顔面外傷・熱傷</p>	オムニバス方式
	精神医学	<p>失語を含めた高次脳機能障害は、脳損傷による神経症候だけでなく、うつ状態等の精神症状との鑑別も極めて重要である。こうした症状と、その症状をもたらす精神医学的な各疾患概念について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患がもたらす身体症状と精神症状について理解する。 2. 各疾患の操作的基準を知る。 3. 言語聴覚士の国家試験に対応できる知識を修得する。 <p>以上を目標とする。</p>	
	神経学	<p>脳(精神)に関連する疾患の医療等に携わる専門家になるにあたり、神経活動に関する基礎知識を獲得し、さらに各神経活動の状態、疾患についての評価法について学ぶことは、極めて重要な手順である。本講義では、中枢神経、末梢神経の構造や役割について学び、さらにそれに関連する各疾患についての基礎事項を学ぶ。</p>	

授業科目の概要

(リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	リハビリテーション医学	<p>リハビリテーション医学は患者（障害者）の自立（インデペンデント・リビング）と社会参加（ノーマライゼーション）を目的に障害に対する処理、リハビリテーションケア、心理療法、在宅指導などを介して、また、各種社会資源を活用し、障害の予防と軽減を目指す医学である。こうした対象となる代表的疾患のリハビリテーション、QOLの向上、社会復帰、在宅リハビリテーションなど実践的な学習を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(28 吉田 晋／5回) 運動器障害、脊髄損傷、切断、中枢神経障害、内部損傷のリハビリテーション (55 浅野雅子／2回) 精神障がいのリハビリテーション (67 木村 恵／3回) 肢体不自由児、発達障害のリハビリテーション、リハビリテーションと福祉用具 (5 中川賀嗣／1回) 言語聴覚障害領域のリハビリテーション（失語症） (17 小林健史／1回) 言語聴覚障害領域のリハビリテーション（発達障害） (19 飯泉智子／1回) 言語聴覚障害領域のリハビリテーション（嚥下障害） (16 柳田早織／1回) 言語聴覚障害領域のリハビリテーション（構音・音声障害） (18 前田秀彦／1回) 言語聴覚障害領域のリハビリテーション（聴覚障害）</p>	オムニバス方式
	歯科学総論	<p>顎口腔機能に障害を持つ患者に対応する上で必要となる歯科学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(1 木下憲治／3回) 超高齢化社会日本と歯科との関連 (53 川上智史／5回) 歯科医療の概要、歯・口腔の形態／構造／機能、口腔の機能障害の診断と治療、口腔と全身のかかわり、咬合・咀嚼・歯列不正、最新の歯科治療</p>	オムニバス方式
	口腔外科学	<p>口腔外科は口腔を構成し、また口腔に関連する組織・器官の各種疾患のうち、主として観血的手術療法の対象となるものの診断と治療を行う臨床科であるが、そのほかに口腔粘膜疾患あるいはある病期の顎骨炎の様な薬物療法を主体とする疾患も含まれる。疾患の部位は口唇、頬、軟口蓋、舌、口底などの軟組織部と、上・下顎骨およびそれらに植立する歯の硬組織部に大別され、口腔に関連する器官は顎関節、唾液腺および所属リンパ節などである。口腔外科で取りあつかう疾患の種類は、上記各部位の先天異常、発育異常、損傷、炎症、特殊な骨疾患、嚢胞、良性・悪性腫瘍、神経疾患などである。</p>	
	音声学	<p>この科目では、音声の生成の仕組み、特徴、記述の方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(9 榊原健一／13回) 発声発語器官の解剖、IPA（国際音声記号）と母音の調音、子音の調音、副次調音、調音結合、音素表記と音声表記、音節とモーラ、日本語の音声、超分節的特徴、実験音声学の方法 (16 柳田早織／1回) 構音障害と音の歪み (9 榊原健一・16 柳田早織／1回)（共同） 音声学とは何か 発声発語器官の解剖と生理、構音障害と音の歪み、実験音声学の方法</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	言語学	<p>音韻論、形態論、意味論、統語論の基本概念を学習しながら、ことばを構成するさまざまな要素を体系的に理解する。言葉の仕組みについての基礎を理解することによって、言語データを言語学的な視点から科学的に分析できる能力を身につける。</p>	
	音響学	<p>この科目では、音の物理的性質、ヒト聴覚の仕組み、音声の音響的特徴を学ぶ。主なテーマは次のとおりである。</p> <p>・音とは何か ・音圧レベル、聴力レベル、感覚レベル、インテンシティ ・スペクトルとフィルタ ・聴覚系の機能 ・音の大きさの知覚 ・マスキング ・音の高さの知覚 ・両耳聴 ・音声生成の音響理論 ・鼻音、摩擦音の音響特徴 ・閉鎖音、破擦音、接近音の音響特徴 ・音響分析手法 ・音声知覚</p>	

授業科目の概要

(リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	言語発達学	<p>言語とは一般的に「話し言葉」と理解されているが、言語とは「伝えあう手段」であるので、音声による言語だけでなく、身振り、文字、点字、絵画文字なども伝えあう手段、すなわち言語であるということが出来る。それらがどのように発達して、なぜ「言語」と言われているのかを理解し、言語発達障害のための言語発達学を考えたい。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(8 福田真二／1回) 文法能力の獲得 (16 柳田早織／1回) 構音(音韻)発達 (100 山路めぐみ／7回) 発生から出生までの言語発達、出生から3か月ころまでの言語発達、2～3か月ころから1歳ころまでの言語発達、前期幼児期の言語発達、後期幼児期の言語発達、視覚的言語 (8 福田真二・100 山路めぐみ／1回) (共同) 言語発達障害への案内</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	日本語学	<p>音韻論、形態論、意味論、統語論の基本概念を応用しながら、日本語の特徴を体系的に学習する。特に、文を構築する上で中核となる動詞に着目する。日本語の特徴を深く理解することによって、日本語のデータを言語学的視点から科学的に分析できる能力を身につける。</p>	
	神経言語学	<p>この科目は、言語聴覚療法の専門領域の一つとして、言語聴覚障害の症状及びメカニズムを言語学的視点から学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2 亀井 尚／7回) 神経言語学諸論、失語症の音韻論・統語論・意味論 (8 福田真二／8回) 特異的言語障害の原因論・症状・神経学的研究</p>	オムニバス方式
	認知心理学	<p>認知心理学では、人が世界をどのように認識し、行動しているのかについて、情報処理モデルを作成し、さまざまな実験を行い、そのモデルの検証を通じて接近しようとする学問である。本講義は言語聴覚療法学科の学生が初めて受講する心理学分野の講義であることを考慮し、心理機能を測るという体験を織り込みながら認知心理学について学んでいく。</p>	
	学習心理学	<p>学習心理学は、心理学の一分野であり、生活体の行動の変容を広く扱う。日常接する人々の行動をよりよく理解する助けとなり、子どものしつけ、ペットの行動矯正などにも広く応用可能である。また、臨床心理学、教育心理学など、他の心理学分野を学ぶ上で、重要な基礎となる。学習内容は、生得的行動、馴化と鋭敏化、古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察・洞察による学習、まとめ等である。</p>	
	発達心理学	<p>この科目は、時間経過に伴う人間の行動の発達過程について学ぶ科目であり、「乳児期の発達」「幼児期の発達」「児童期の発達」「青年期の発達」「成人期・中年期の発達」「老年期の発達」「認知発達と言語発達」「情報交流と言語発達」について学ぶ。</p>	
	生理心理学	<p>本講義では、「脳と心の謎」について考えるために、中枢神経系、自律神経系、内分泌系、免疫系、骨格筋系、視覚-運動系についての生理心理学的知識を理解することを目的としている。脳と心との関係について基本的な知識を身につける。</p>	
	臨床心理学	<p>本授業は臨床心理学の理論と技法を概観するとともに、医療人の素養としてのメンタルヘルスに関する専門的知識を身につけるものである。臨床心理学に関する基礎知識を修得し、アセスメントや治療に関する技法を体験し、見立てや診断に応じてそれらの技法を使い分けるための要点を理解することを目標とする。</p>	
	心理測定法	<p>言語聴覚領域で用いられる心理学的測定法・研究法の概要を学び、同時に言語聴覚士国家試験の当該分野における出題レベルの知識を身につける。主な項目は「心理測定法の体験」「心理測定と測定値の性質」「データ解析の過程」「知覚研究における測定」「認知研究における測定」「社会心理学における測定」「発達・教育研究における測定」「心理臨床における測定」などで授業の後半にはこれまで学習した内容をもとにした、特定のテーマに関するデータの収集と分析を行う小演習を実施する。</p>	

授業科目の概要

(リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	リハビリテーション概論	<p>リハビリテーションの目的、方法、および基盤となる理念を理解し、さらにリハビリテーションの実践において言語聴覚士と医師、看護師、理学療法士、作業療法士とのチーム医療について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(11 田村 至／2回) 言語聴覚障害のリハビリテーション、まとめ</p> <p>(21 泉 唯史／3回) リハビリテーションの概念や定義、疾病や受傷による運動機能の影響、リハビリテーション基本的アプローチと障害モデル</p> <p>(23 鎌田樹寛／3回) ICF、障害および障害者概念、リハビリテーションの領域と関連職種、身体障害、高齢者の作業療法</p> <p>(83 佐々木佑二／2回) 運動器、神経障害、内部障害の理学療法</p> <p>(89 児玉壮志／2回) 障害者の心理と障害受容、精神障害、発達障害の作業療法</p> <p>(11 田村 至／3回) 言語聴覚療育のリハビリテーション(リハビリテーション医から見たチーム医療、急性期における言語聴覚療法、回復期・維持期における言語聴覚療法)</p>	オムニバス方式
	関係法規	<p>この講義の概要は、以下のとおりである。</p> <p>① 衛生法規の定義、分類、目的について学ぶ。</p> <p>② 医療の内容と医療従事者の種類、役割について定めた医療法規の全容を学ぶ。</p> <p>③ 障害者福祉法及び高齢者対策に関する保健衛生法規を学ぶ。</p> <p>④ 衛生法規以外に、個人情報保護法、民法について関連事項を学ぶ。</p>	
	社会保障制度論	<p>この講義の概要は、以下のとおりである。</p> <p>① 現代社会の動向と社会保障制度の関連を理解する。</p> <p>② 我が国の社会保障制度の体系を理解する。</p> <p>③ 社会保障制度の形成過程を概説する。</p> <p>④ 社会保障制度の機能を概説する。</p> <p>⑤ 社会保障制度を構成する個別的制度の概要を概説する。</p>	
	社会福祉援助技術論	<p>社会福祉は人間の社会生活上起きるさまざまな困難の解決・緩和を行う援助活動である。社会福祉実践の目的は「人間が満足のいく社会生活をおくれるように人が抱えている社会的、心理的問題の解決を援助したり、必要としている社会資源を見つけたり、社会環境との調整などをして、個人と家族が日常生活の社会的機能を向上できるように援助することである。</p> <p>講義は「言語聴覚士」を目指す学生が「対象者を良く理解し、対象者と良い人間関係を結び、良い支援ができる」事を目的とする。主に「社会福祉援助技術の基礎的理論と実践教育」を目指している。</p>	
	失語症学Ⅰ	<p>この科目では言語聴覚士による言語聴覚療法の対象である失語症についての基礎知識について学習する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(5 中川賀嗣／2回) 失語症の基礎(大脳における失語関連領域)</p> <p>(11 田村 至／6回) 失語症の基礎(失語症の定義と研究史、原因疾患、症状、タイプ分類)</p>	オムニバス方式
	失語症学Ⅱ	<p>この科目では、言語聴覚療法の対象である失語症についての基本的知識(評価・診断、治療、予後)について学習する。</p> <p>(オムニバス方式／全12回)</p> <p>(2 亀井 尚／7回) 失語症の治療法(言語治療の枠組み、失語症治療の研究法、行動理論に基づく訓練法、機能再編成法、認知神経心理学的アプローチ、実用コミュニケーション訓練)、失語症の予後(要因、言語機能の回復)</p> <p>(107 大槻美佳／5回) 失語症の評価、失語症の診断(タイプ分類、ボストン学派の古典的分類と病巣)、読み書き障害、実践への応用</p>	オムニバス方式

授業科目の概要

(リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	高次脳機能障害学	<p>大脳の損傷によって生じる失語症、失認、失行、記憶障害、注意障害などの様々な脳機能障害およびその出現メカニズムを理解し、さらに実際の臨床で用いる評価法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全12回)</p> <p>(5 中川賀嗣／6回)</p> <p>高次脳機能障害の定義、神経心理学の考え方、脳構造と画像の見方、背景症状の把握、視覚の高次脳機能障害、その他の視覚関連障害、聴覚の高次脳機能障害、病態理解関連の障害、行為・動作の高次脳機能障害、脳梁離断症候群</p> <p>(11 田村 至／6回)</p> <p>高次脳機能障害についての視聴覚教材、記憶の構造と分類、記憶障害、前頭葉機能障害(遂行機能障害、注意障害)、認知症</p>	オムニバス方式
	言語発達障害学	<p>言語発達の遅れを生じる障害について基本的な項目の修得を目指す。第2学年前期の「言語発達学」で学んだ定型発達児の言語獲得過程を指標として、言語発達障害の特徴、その評価(情報収集と検査)と支援方法を学ぶ。また知的障害、学習障害、注意欠如多動性障害、自閉症スペクトラム障害、脳性麻痺・重複障害などの関連する障害に触れ、各障害の特徴を学ぶ。この講義は第3学年前期の「言語発達障害学特論」の基礎となる内容である。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(12 橋本竜作／7回)</p> <p>言語発達障害とは、言語発達の評価と支援(読み書きと学童期の言語発達の特徴)、関連する障害・疾患(特異的言語発達障害、学習障害、知的障害・先天異常・注意欠如多動性障害)、支援方法と実際</p> <p>(17 小林健史／7回)</p> <p>言語発達の評価と支援(前言語期、語彙獲得期、幼児期の特徴)、関連する障害・疾患(脳性麻痺・重複障害、自閉症スペクトラム障害)、支援方法と実際(〈S-S法〉、語用論的アプローチ、AAC、TEACCH)、療育・支援</p> <p>(12 橋本竜作・17 小林健史／1回)(共同)</p> <p>まとめ</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	言語発達障害学特論	<p>言語発達の阻害要因である特異的言語障害、学習障害、注意欠如／多動性障害、脳性麻痺、自閉症スペクトラム障害に関するさまざまなトピックスに触れ、言語発達障害についての知見を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(8 福田真二／7回)</p> <p>特異的言語障害(定義／歴史／診断基準、サブタイプ化の試み、言語の脳内処理モデル、変換処理と解析・演算処理)</p> <p>(12 橋本竜作／3回)</p> <p>学習障害、注意欠如／多動性障害、脳性麻痺</p> <p>(17 小林健史／3回)</p> <p>発達段階に応じた支援法、自閉症スペクトラム、地域支援</p> <p>(12 橋本竜作・17 小林健史／2回)(共同)</p> <p>障害に応じた支援法</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	成人発声発語障害学	<p>発声発語障害のうち、運動障害性構音障害、成人にみられる器質性構音障害、音声障害について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(4 西澤典子／7回)</p> <p>疾患論、音声障害</p> <p>(3 今井智子／4回)</p> <p>運動障害性構音障害、器質性構音障害</p> <p>(19 飯泉智子／19回)</p> <p>成人発声発語障害学概論、運動障害性構音障害</p>	オムニバス方式
	小児発声発語障害学	<p>発声発語障害のうち、小児にみられる機能性構音障害、器質性構音障害(口蓋裂)、吃音について、それらの症状・評価・診断方法・治療法を学ぶ。</p>	

授業科目の概要

(リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	摂食嚥下障害学	<p>摂食・嚥下機能の問題により食べることに不自由をもつ人に対する摂食・嚥下リハビリテーションについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 木下憲治／1回) 小児摂食・嚥下障害 (4 西澤典子／1回) 医科治療 (19 飯泉智子／13回) 摂食・嚥下障害の概要・評価・介入</p>	オムニバス方式
	成人聴覚障害学	<p>成人聴覚障害に対する言語聴覚療法を行うために必要なことがらを、理論面から学習する。</p> <p>聴覚系の解剖生理をすでに履修していることを前提とする。並列して開講される「耳鼻咽喉科学」において聴覚障害の病態学を履修しつつ、本講では、聴覚障害の評価、診断、治療ならびに補聴やリハビリテーションを学ぶ。次年度の「聴覚障害学演習」への理論的基礎を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4 西澤典子／7回) 聴覚検査法(遮蔽・補充現象と聴覚疲労、閾値上検査、インピーダンスオージオメトリ)、補聴器フィッティング理論の理解 (10 玉重詠子／5回) 聴覚検査法(純音聴力検査、語音聴力検査)、補聴器適合検査、リハビリテーション(中途失聴者のコミュニケーション手段、福祉制度、視覚聴覚二重障害) (18 前田秀彦／2回) 聴覚検査法(オージオメータの構造)、骨固定型補聴器 (10 玉重詠子・18 前田秀彦／1回)(共同) 聴覚検査法(オージオメータの構造)</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	小児聴覚障害学	<p>小児聴覚障害に対する言語聴覚療法を行うために必要なことがらを、理論面から学習する。本講では小児聴覚障害の評価、補聴(補聴器・人工内耳)、リハビリテーションを学ぶ。聴覚障害学演習への理論的基礎を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4 西澤典子／2回) 乳幼児聴覚検査法(他覚的聴力検査法)、人工内耳の医学 (10 玉重詠子／7回) 小児の補聴、人工内耳の実際(評価法)、聴覚と発達 (18 前田秀彦／5回) 乳幼児聴覚検査法(聴性脳幹反応ABR・聴性定常反応ASSRの実際、聴性行動反応検査BOA、条件詮索反応検査CORの原理・方法、ピープショウテスト、遊戯聴力検査の原理・方法) (4 西澤典子・10 玉重詠子・18 前田秀彦／1回)(共同) 乳幼児聴覚検査法(聴性誘発反応検査、新生児聴覚スクリーン検査、耳音響放射検査OAEなど)</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	失語症学演習Ⅰ	<p>言語聴覚療法の対象である失語症について、基本的検査・評価技能、治療技能を実技的に学ぶ。</p> <p>(1) 評価・診断(情報収集、鑑別診断など)・問題点(ICFに基づく) (2) 予後の推定(予後規定因子、予後予測) (3) 治療・訓練の企画・立案</p>	共同
	失語症学演習Ⅱ	<p>失語症検査の施行法を学び、実際の症例の検査結果から、症状の捉え方、訓練プログラムの立案、評価報告書および症例報告書の書き方を学ぶ。また掘り下げ検査について目的と施行法、結果の解釈について学ぶ。</p>	共同
高次脳機能障害学演習	<p>失認、失行、記憶障害、遂行機能障害、注意障害、認知症についての検査の選択、評価法について学び、鑑別診断の方法、評価報告書の書き方、リハビリテーションの方法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 中川賀嗣／1回) 失行検査 (11 田村 至・20 黒崎芳子／14回)(共同) 知的機能検査、失認検査、記憶検査、遂行機能・注意機能検査、高次脳機能障害に関する症例</p>	オムニバス方式 共同(一部)	

授業科目の概要

(リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	言語発達障害学演習	<p>「言語発達障害学」で学んだ知識を基礎としつつ、事例に合せた適切な検査の選択、実施と解釈、それに基づく訓練目標の選択、そして訓練の実施という一連の流れに関する実践力を培う。特に検査の背景にある理論的枠組みと、検査中の観察ポイントを学ぶことで、支援のヒントを得る観察眼を養う。また定型発達の実際について、実際の幼児期の様子を観察し、発達の諸側面を検査項目と比較して学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(12 橋本竜作／12回) 知能検査、認知機能検査、知能検査 (17 小林健史／12回) 発達検査、言語発達検査 (12 橋本竜作・17 小林健史／6回) (共同) ガイダンス、言語発達検査、指導・訓練</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	成人発声発語障害学演習	<p>運動障害性構音障害、器質性構音障害(舌切除)、および音声障害に関する評価、訓練の実施方法を学ぶ。さらに、評価に基づいた訓練方針の考え方について習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(3 今井智子／2回) 構音障害の評価 (19 飯泉智子／16回) 運動障害性構音障害の評価・訓練(実技演習:発声発語器官の機能検査法、聴覚的印象による評価方法、機能訓練の実施方法、発話速度の調整法) (16 柳田早織／12回) 音声障害(病歴聴取とQOL評価、聴覚心理的評価と音響分析、空気力学的評価・生理的声域の測定、音声治療、症例検討・発表)</p>	オムニバス方式
	小児発声発語障害学演習	<p>小児発声発語障害(構音障害、鼻咽腔閉鎖機能、吃音)に関する基本的検査、構音訓練の実施方法を習得する。また、PBL形式の症例検討を行い、実践能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3 今井智子／12回) 発声発語検査(構音検査、構音訓練、鼻咽腔閉鎖機能検査、吃音検査)、症例検討 (3 今井智子・16 柳田早織／3回) (共同) 発声発語検査(構音検査、構音訓練、鼻咽腔閉鎖機能検査)</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	摂食嚥下障害学演習	<p>摂食・嚥下リハビリテーションにおける、介入計画の基本的な考え方、評価法、訓練法の実施方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(19 飯泉智子／13回) 症例に基づいた学習方法、摂食・嚥下障害の評価(情報収集、摂食・嚥下関連器官の機能検査、摂食・嚥下機能検査、摂食場面の観察)、直接訓練、間接訓練、症例検討 (1 木下憲治・19 飯泉智子／2回) (共同) 摂食・嚥下障害の評価(VF・VEの読影)</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	聴覚障害学演習	<p>成人聴覚障害ならびに小児聴覚障害に関する基本的検査、評価法および聴覚補償法について習得する。まとめとして、PBL形式で症例に対する合理的な補聴とリハビリテーションの方針策定を補聴器の操作等を通して実際に学習する。</p>	共同
	基礎実習	<p>総合実習への導入を容易にするために行われる実習である。 臨床観察、症例課題および評価法の自主学習を通して、評価技術および考え方を修得する。また、医療人としての習慣、信条を習得する。</p>	共同
	総合実習	<p>基礎および専門科目で身につけた知識・技術を統合し、臨床実習指導者の指示の下で各種障害に対する言語聴覚療法を実習し、言語聴覚療法全般および医療人としての態度・行動について学ぶ。</p>	共同

授業科目の概要

(リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	英語論文講読・研究法	<p>4年次の科目「卒業研究」における研究をするための基礎的な知識として、研究のデザイン方法について学ぶ。具体的には、言語聴覚学に関する各領域（失語・高次脳機能障害、言語発達障害、聴覚障害、発声発語障害、摂食嚥下障害）におけるデータの収集法やデータの処理（統計）及び分析の方法について学ぶ。</p> <p>また、言語聴覚学に関する各領域の英文論文を講読する練習も行う。</p> <p>この科目は、将来、大学院への進学を考えている学生にもお勧めの科目である。</p> <p>(オムニバス方式／全23回)</p> <p>(8 福田真二／12回) 英語論文講読 (9 榊原健一・12 橋本竜作／11回) (共同) 研究法（科学的方法、研究の方法、研究デザイン、データ処理、論文の書き方）</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	言語聴覚ゼミナールⅠ	<p>言語聴覚障害学の各領域（失語・高次脳機能障害、言語発達障害、聴覚障害、発声発語障害、摂食嚥下障害）のいずれかの領域について、担当教員の指導の下で文献講読を行い、基礎知識の確認、障害メカニズムの捉え方とともに研究法について学ぶ。</p>	共同
	言語聴覚ゼミナールⅡ	<p>言語聴覚ゼミナールⅠで学んだ内容をさらに深め、文献講読などを通して、各領域でのこれまでの主要な研究成果、最新の研究についての知識、訓練法を学び、臨床への応用力を身につける。</p>	共同
	卒業研究	<p>言語聴覚障害の一領域について、担当教員の指導の下で、研究計画立案、実験の計画・施行、結果の解析、考察という一連の研究法の基礎を実践することで研究的視点を養う。</p>	共同